小特集

社会人・企業向け講座のいま

「人生100年時代構想」、「一億総活躍社会の実現」、「定年を70歳に引き上げる方針」などが発表される中、私たちの人生設計のあり方は大きく変わろうとしている。また、IoT、ロボット、人工知能（AI）など先端技術の発展による「Society 5.0」によって実現する社会において、大学卒業後も学び続けることは、個々人が豊かな人生を送るためだけでなく、社会人、企業人が仕事の専門性をより高め、人ができる仕事の質を向上させるためにも、その必要性はさらに高まっていくものと考えられる。

こうした社会状況の変化により、大学はこれまで高校卒業後の年齢層を中心としていた教育だけでなく、さまざまな年齢層、とりわけ産学連携を促進する中で現役の社会人をより意識した教育のあり方をあらためて見直す転換期を迎えている。

本小特集では、従来の生涯教育、教養講座の枠を超えて、前記のような社会人や企業を念頭に企画・開講されている講座などの実例をご紹介いただき、グッドプラクティスや課題を共有して、今後の各大学での取り組みに資することを目的としたい。

Tsuda Open University: Global Education and Sustainable Development Program

田近 裕子
●津田塾大学総合政策学部教授、オープンユニバーシティ・プログラムディレクター

「人生100年時代の学び」を目指して
――ライフステージに寄り添う教育モデルとは――

守口 剛
●早稲田大学教務部社会人教育事業室長、商学学術院教授

「ビジネスプログラム」での学びと成果
～明治大学リバティアカデミー20年の歩みとともに～

小川 智由
●明治大学商学部教授、リバティアカデミー「ビジネスプログラム」専門部会長、「女性のためのスマートキャリアプログラム」コーディネータ

社会人向け講座の取り組み

中央大学経理研究所事務室

小特集 社会人・企業向け講座のいま

Tsuda Open University: Global Education and Sustainable Development Program

田近 裕子●津田塾大学総合政策学部教授、オープンユニバーシティ・プログラムディレクター

はじめに

津田塾大学では学部4年間の女子教育に限らず、広く社会へ出てからも学び続けたい人々のために、年齢もジェンダーも超えた一般の社会人を支援する組織、Tsuda Open University（TOU）を創設して社会貢献を行っている。TOUには複数の教育の柱があるが、中でも時代のもっとも強い要望に的確に応えているのが、Global Education and Sustainable Development Program（GESDプログラム）である。本稿では、このプログラムに焦点を当てて津田塾大学の社会教育活動について述べたい。

GESDプログラムでは、広くグローバル教育（GE: Global Education）に触れると同時に、国連の掲げる17の持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）を中心に学べる複数の講座を設けている。これらの講座のねらいは、国際機関で働きたい、海外あるいは国内の大学院で専門的に学びたい、NGOやNPOに関わりたい、国際的なキャリアを積みたいといった希望を持つ社会人が英語を使ってキャリアを磨くサポートをすることにある。津田塾大学には英語教育を通して女性の社会参画を推進してきた実績があり、GESDプログラムも、職場で求められる実践的な英語力を磨くことを大きな目標の一つとしている。

1 GESDプログラムのフォーカス

GESDプログラムの主な柱は、「幅広いGE、つまりグローバル教育への導入」「英語で専門的に書く訓練」

「実践的なワークショップを通してNGOやNPOについて学ぶ」という3部構成になっている。このプログラムの魅力は、受講生が英語を使って活動やディスカッションをする参加型であり、さらにこの3つの柱が相互に深く関連して作用しているところにある。

まず、受講生は中級あるいはその少し手前のレベルの英語力で履修可能なワークショップ形式の授業に参加し、GEやSDGsに関する知識や語彙力、さらに会話力を身に付ける。

その上で、将来、英語で書く実務に多く従事すると考えられる場合は、プロフェッショナルな英語エッセイライティング指導を受けることができる。本学にはしっかりとした英文ライティングスキルを培う長い伝統があり、TOUもこれを継承している。とりわけ、昨今のデジタル通信の時代には、英文ライティングの即戦力の必要性がいっそう高まっている。

さらに、次のステップとして、17あるSDGsのそれぞれについて深く掘り下げて学ぶワークショップ形式の授業に参加する。この講座は、実際にNGOやNPOで社会貢献をしている専門家に対面して実践的に学べる仕組みとなっている。もちろん、受講生の必要性に応じて、3部構成の一部のみの履修も可能である。

2　GESDプログラムのカリキュラム

では、具体的にどのようなカリキュラムが組まれているかを見てみよう。前記3種の講座は、それぞれ7～8回から10回のまとまりとして夕方開講される。このサイクルが、それぞれ春・秋・冬期と年に3回繰り返される。受講生は、事前の説明会で担当講師と直接面談した上で、それぞれ希望の講座を選ぶ。ほとんどの講座が夕方から夜にかけて、仕事を終えて帰宅する前に本学の千駄ヶ谷キャンパスに立ち寄って受講できるプランとなっている。

GESDプログラム全体の導入に該当するEnglish for NGOs: Vocabulary and Conversational Skills Development講座では、NGO活動についてワークショップ形式で学ぶと同時に、英語の語彙も増やし、会話力も高める。扱うテーマは、主にNGO、環境、ジェンダー、衛生と健康、人権、貧困、飢餓、人口問題、開発、紛争と解決、安全、公正、人道支援、平等などである。受講生は授業でこうした課題について学び、自分でも身近なNGO活動に参加し、その経験についてクラスで英語による口頭発表を行う。

こうした導入編の後、英語で専門的に記述するために、講師から充実したフィードバックが得られるProfessional Writing Skills for International Organizations and Cooperation や Project-Based Writing Skills のライティング講座がある。Professional Writing Skills では、10週間を三つのモジュールに分けて、パラグラフやパラフレーズやサマリーなどの基本的英作文の手法から始まって、電子メールやポスター、さらにプレス・リリースや助成金への応募書類など、さまざまな専門的英文を記述する力を磨きあげる。Project-Based Writing Skills では、受講生が選んだトピックについて、段階を追って指導を受けながら書き進め、7週目には、同じクラスの学生とピアレビューやフィードバックを行い、最終段階では5～6ページの論文を完成させる。なお、論文のテーマは、人権、食糧、飢餓、企業の社会的責任、経済開発、子どもの健康、難民問題、環境問題などである。

実際にNGOやNPOの活動に直接かかわりたい受講生は、中級かそれ以上の英語力が求められるが、Current Issues in Sustainable Development や Sustainable Development Issues や Gender in Sustainable Development などの講座を通して、SDGsについて深く掘り下げて扱うことができる。この参加型で相互コミュニケーションを重視した授業では、最後に個人のプロジェクト発表の機会がある。また、このコースに関連したNGO Stories from the Field や Seminar Series の講座では、NGOやNPOの現場で実際に仕事をしているフィールドの専門家をゲストスピーカーとして招き、受講生が高い専門性に触れ、現場の専門家から直接アドバイスも得られるよう工夫している。

以上がGESDプログラムを支える三つの柱であるが、この他にも、国連面接対策講座を設けている。これは、国連などの国際機関で実際に面接を受ける受講生向きである。国連でミーディエータの実績を長く積み、キャリア・コーチングやエグゼクティブ・コーチングの専門トレーニングを受けて資格を取得しているベテランの講師が、実践的に英語のインタビュー・テクニックの指導を行う。この講座は、国連および他の国際機関志望者には最適の講座である。

3　多様な受講生とプログラム

GESDプログラムは、その前身である1979年発足のTsuda International Training Program（TITP）

プログラムの時代から、実に多様な背景を持った受講生を受け入れてきた。従来は、ジャーナリスト、技師、医師、看護師、弁護士、翻訳家、医学生、大学院生、研究者、大学教職員、警備員、芸術家など、また、官公庁、金融・銀行、マーケティング、外務省、JICA、JAFSA（国際教育交流協議会）、地方自治体、大使館、国際機関やNGO、NPOなどの経歴のある人や国内外の大学院進学を目指す人々が受講している。

TOUは、これらのほかにも、広く社会人教育に貢献する講座を提供している。英語に関しては、専門性の高い大学院レベルの英語論文指導講座や、一般の学生および社会人の資格試験対策講座、東京五輪に向けた“Welcome to Sendagaya”クラスを英語、スペイン語、中国語で設けている。また、教員対象の小中高英語教員研修や、初等英語教育の支援なども行っている。TOUそのものは2017年度に新設されたが、千駄ヶ谷キャンパスにおける、英語を中心とした津田塾大学の社会人教育には長い歴史と定評があり、今後も広く多くの人々の教育を支援し続ける予定である。

まとめ

人生100年時代ともいわれる昨今、20代前半で大学教育を終え、社会人として40年間過ごし、60代の定年を迎えた後も、かなり長い期間健康で過ごせる時代に入っている。健康で長寿の時代には、人は常に自己研鑽を積み、大学卒業後も自分を磨き続けることが必須である。生涯学び続けることによってこそ、以前に比べて数倍豊かな人生を送れる時代なのである。最近、修士号取得を目指す夜間の英語教育研究コースの入学者の面接をしていて感じるのは、50代の自己に対する投資である。それまで充実したキャリア展開をしてきた人々が、定年を迎える10年前に新しいことにチャレンジし、いわゆるキャリア・アップを計画的に目指している。本GESDプログラムをはじめとするTOUの多様なプログラムは、こうした需要に着実に応えることができる。津田塾大学は、今後もこのようなキャリア・アップの機会を広く積極的に提供していく。

小特集 社会人・企業向け講座のいま

「人生100年時代の学び」を目指して
――ライフステージに寄り添う教育モデルとは――

守口 剛●早稲田大学教務部社会人教育事業室長、商学学術院教授

1 受け継がれるリカレント教育の伝統

人生100年時代が到来し、働き方改革の推進が浸透しつつある現在、さまざまな分野において対応が求められている中、社会人の学び直し・リカレント教育が注目されている。本学は、創設当初から広く社会へ門戸を開き、その精神は現在に至るまで継承されている。本学の前身である東京専門学校が、建学の精神に鑑み、多くの人々に勉学の機会を提供すべく「校外生制度」を定め、「講義録」を用いた通信教育を開始したのは、創設からわずか4年後の1886年であった。この「講義録」は約70年間にわたり発行され、購読者は延べ200万人を超えた。また、「講義録」と両輪をなすものとして、1893年には本学教員が全国各地に赴いて講義を行う「巡回講話」を開始している。これらはいずれも学問の普及のために取られた施策であり、本学が創設当初からリカレント教育を重視してきたことを表している。なお、この「巡回講話」は、その後も脈々と引き継がれ、現在では「地域交流フォーラム講演会」として1都4県を除く全道府県において実施されている。

さらに、本学は夜間学部の設置や専修学校、専門学校の創設などの施策を講じてきた。現在、正規課程においては、2003年に日本で初めてインターネットによる大学の通信教育課程として設置した人間科学部通信教育課程（eスクール）をはじめ、多くの学部・大学院が正規課程への社会人の受け入れを念頭においた入学試験制度を有し、複数の大学院が在学年数を短縮できるコースや、夜間と土曜日に多くの講義を設置するなど、社会人

の修学ニーズに応えている。時代や環境の変化に対応して形は変容してきたが、本学のリカレント教育への積極的な姿勢は、いまもなお変わっていない。

続いて次項では現在のノンディグリープログラムの概況について述べる。

2　さまざまなプログラムと新機軸の取り組み

本学は、多くのリソースを生かした特色ある社会人向けのノンディグリープログラムを多数設定しているが、ここではその一部を抜粋して概況を紹介する。

(1)　エクステンションセンターの公開講座「オープンカレッジ」と新たな取り組み

「ユニバーシティ・エクステンション」の理念の下、1981年に開設したエクステンションセンターは、当時は生涯学習を含め、大学を一般に広く開放しようとする動きが始まったばかりであったが、公開講座を核として先駆的な取り組みを実践してきた。現在、公開講座「オープンカレッジ」を早稲田（本学早稲田キャンパス）、八丁堀（中央区京華スクエア）、中野（本学中野国際コミュニティプラザ）の3校体制で実施しており、2017年度実績で年間約1900講座（10ジャンル、4学期合計）、延べ4万2000人以上が受講している。近年では、現役社会人世代の受講を推進するため、「オープンカレッジ」の新たなコンテンツとして「社会人のための必修教養講座」シリーズを開講するほか、定期的に受講することが困難な社会人に向けて、2018年度秋学期から土曜日1回完結型の「サタデーレクチャー～早稲田の杜の教養シリーズ～」を展開している。また、これまでは子ども向け講座を夏休みに合わせて実施してきたが、2019年度から新たな取り組みとして、同センター初の小学生向け講座「WASEDA Kids English」を開講する。

昨年12月に開催した第1回「サタデーレクチャー～早稲田の杜の教養シリーズ～」で講演する中林美恵子教授

(2) ビジネス・ファイナンス研究センターによるエグゼクティブ教育

ビジネス・ファイナンス研究センターが大学院経営管理研究科（早稲田大学ビジネススクール）と連携し、主に経営管理層の中核として活躍する企業人が抱える課題を克服するための知見を提供している。個人で受講申し込みができる「ＭＢＡエッセンシャルズ」、「ファンドマネジメント講座」、「インベストメント・バンキング講座」のほか、所属企業の推薦、派遣を受けて受講する「集中講座　エグゼクティブプログラム」や「EMBA Essence」など、多数のエグゼクティブ向けプログラムを展開している。２０１７年度実績で年間39プログラムを開講し、約４０００人（延べ人数）が参加している。

(3) 大学院日本語教育研究科による目的別プログラム

大学院日本語教育研究科では、ますますグローバル化する社会の流れを受け、「教室で日本語を教える日本語教師」に限らず、日本語教育学に関する知見と実践力を身に付け、広く社会づくりに貢献できる「日本語教育実践者」の輩出を目指している。２０１８年度には、実質的な通学が1年で完了する「現職社会人コース」を正規課程に新たに設け、日本語を母語としない児童・生徒の指導を担う教師や、外国人住民にかかわる公務員が1年間の休職で修士号を取得できる仕組みも整えた。

また、ノンディグリーの公開講座として、週に1回の通学型の「日本語教育学公開講座」、より実践的な課題を双方向に話し合う「日本語教育実践ワークショップ」、日本語教育の基礎をいつでもどこでも世界中で学べる「オンデマンド講座」を開講している。

(4) スポーツ MBA Essence

これからのスポーツビジネス界を担うために、スポーツマネジメントに関する知識を必要とする社会人向けのノンディグリープログラムとして、「スポーツ MBA Essence」を２０１７年度に開始した。スポーツを経営学的な視点から総合的に学べる点が最大の特徴であり、授業はスポーツを専門とするスポーツ科学学術院の教授陣と、ビジネスを専門とする早稲田大学ビジネススクールの教授陣の双方が担当する。講義に加え、グループプロジェクトによる実践的なケーススタディも取り扱う。科目単位ではなくパッケージの受講となっており、スポーツビジネスに関連する重要な要素を体系的に学ぶことが

できる。

(5) WASEDA NEO

本学の社会人教育の伝統をふまえ、新たな取り組みとして2017年度にCOREDO日本橋にオープンした「WASEDA NEO」は、次の時代を創るリーダーによるイノベーションを起こすための「共創の場」の実現を目指し活動を開始した。最先端の理論や知識に触れる機会とともに、未来志向のパイオニアたちと学び合い、交流する場を提供すべく、学内外のさまざまな人材・団体・企業との連携・協働による多様なサービスやプログラムを設定している。事業の主な柱は次の三つである。

① パイオニア・コミュニティ

知の更新とアウトプット、応援し合える仲間づくりのための会員制サービス「パイオニア・コミュニティ」。会員同士の交流の場やワークスペースとして利用できる「コミュニティラウンジ」、時代の最先端を走る方々の価値観や世界観に触れることができる「パイオニアセミナー」、未来へ向けた想いを会員同士で共有し、学び合うことができる「コ・ラーニング」を主な要素としている。「パイオニアセミナー」は会員以外も参加可能であるが、会員は年間10回まで無料で受講することができる。付随して、カフェサービスのほか、サロンスペースや充実したビジネスセンターの利用、交流プログラム参加などのサービスも提供している。

② 学びのプログラム

キャリア形成や事業創造の理論など、これからの社会をつくるビジネスパーソンに必要とされる、多種多様な知識やスキルを身に付けるプログラムを、平日の昼と夜および土曜日の昼に開講している。また、出勤前の1時間で、すぐに使えるスキルの修得、向上心旺盛な仲間との新しいコミュニティの形成を目指す「日本橋ブレックファストセミナー（通称：朝活）」を展開。さらに法人向けのメニューとして、企業・団体が抱える

WASEDA NEO 内の「コワーキングスペース」

課題に対応する研修プログラムをカスタムメイドで実施するサービスもある。

③　NEOイノベーション拠点

実践的研修プログラムをWASEDA NEOと協働展開する運営者や、WASEDA NEOの事業パートナーが入居できるサービスオフィスを整備している。入居者同士の交流を通じた次の成長シーズの発見やオープンイノベーションの環境構築を目指している。

⑹　履修証明プログラム

本学は非正規生向けの社会人教育プログラムを多数提供してきているが、２０１８年まで履修証明プログラムとしての提供はなかった。

より多くの方々が職業人としての専門スキルを習得しやすくするために、２０１８年5月に「21世紀のリーダーシップ開発」（主担当：日向野幹也早稲田大学教授）の講座がスタートし、6月には「スマートエスイー」（主担当：鷲崎弘宣早稲田大学教授）の講座を開始している。21世紀のリーダーシップ開発は、権限によらないリーダーシップの獲得のみならず、他者のリーダーシップ開発を行う「リーダーシップ教育者」の育成を目的としており、高校教員や大学教職員、企業の人事・研修担当者が受講している。スマートエスイーはWASEDA NEOを拠点に、第一線の教育者・研究者・実務家が、超スマート社会を国際的にリードするイノベーティブ人材を育成するＡＩ・ＩｏＴ・ビッグデータ技術分野の社会人学び直しプログラムであり、早稲田大学が代表校となり、13の大学・研究機関と共に文部科学省平成29年度「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」の公募（enPiT-Pro）に採択されたことから始まったものである。

3　社会人教育事業室の創設と今後の展望

人生１００年時代の到来により、従来型の就学→就労→引退という単線型の人生から、「学び」「仕事」「余暇」や、これらのどれにも属さない「開拓」の時期が混在あるいは並行する複線型の人生にシフトすることが求められつつある。また、働き方改革の流れを受けて、就職・就労の形態も変化しつつある。このような状況下、高等教育機関に求められるのは、マルチステージ・マルチパーパスに対応し得る、多様な形態による「学びの場」である。

その実現に向け、本学は２０１７年6月に「社会人教

育事業室」を開設し、社会人のための学びの機会を創出・推進する体制を整備した。学内に協力体制を築き、散在する多くの「社会人の学び」のための資源を活用して、大学全体として効果的かつ効率的に社会に提供・発信することを目的としている。その第一歩として、多様な世代、多様な目的のための「学び」のプラットホームとなるウェブサイト「早稲田大学まなびのコンパス」(https://www.wasecom.jp/) を開設した。本サイトでは、各プログラムの紹介はもとより、ロールモデルを提示することによって「学び」への気運の醸成を目指し、受講者や講師のインタビュー、特色ある講座の紹介記事などを積極的に発信している。

本学の中長期計画「Waseda Vision 150」においても、「社会人教育の拡充」は重点課題の一つに位置付けられている。本学の総合力と可能性を最大限に発揮すべく、既存のプログラムの活用と新たなシーズの発見・開発により、先進的な生涯学習・リカレント教育のモデルの構築を目指している。

小特集 社会人・企業向け講座のいま

「ビジネスプログラム」での学びと成果
～明治大学リバティアカデミー20年の歩みとともに～

小川 智由●明治大学商学部教授、リバティアカデミー「ビジネスプログラム」専門部会長、「女性のためのスマートキャリアプログラム」コーディネータ

はじめに

明治大学による、社会人の生涯学習の拠点が「明治大学リバティアカデミー」である。２０１９年はリバティアカデミー開設20周年の節目の年となる。リバティアカデミーの三つの教育分野の柱の一つがビジネスプログラムであり、これまでは仕事と学びの両立を実現すべく、夜間と土曜日に講座を開設してきた。４年前には、「履修証明制度」を活用し、女性を対象に平日の昼間に開講する「女性のためのスマートキャリアプログラム」もスタートさせた。ビジネスプログラムの方向性や可能性から、次の時代の大学教育のあるべき姿も見えてくる。

1 リバティアカデミーの成り立ちから現在まで

明治大学リバティアカデミーでは、毎年延べ４００以上の講座が開講され、年間、延べ２万５０００人以上の受講生が各種の学びを体験している。リバティアカデミーの母体は、１９９０年代に明治大学が大学を離れて、長野県諏訪市や千葉県成田市で開講した公開講座である。１９９７年スタートの「明治大学・成田社会人大学」は、いまでも地域での学びの場という役割を果たしている。

１９９９年に、明治大学の社会人講座のプログラムとして「明治大学リバティアカデミー」が正式に発足し、その２年後には、「ビジネスプログラム」が独立した。現在では、平日の昼間開講の「教養・文化講座」、平日の夜

MEIJI UNIV. LIBERTY ACADEMY
明治大学リバティアカデミー

皆さまに支えられて、20年。
～リバティアカデミーのあゆみ～

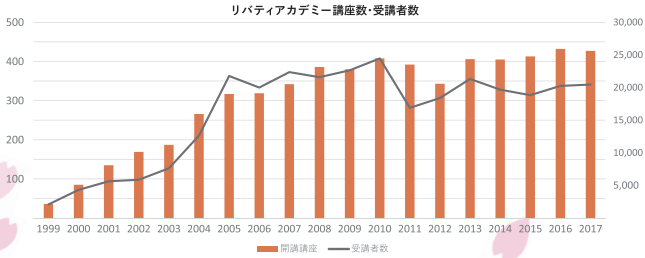
- 1881年　明治法律学校（現・明治大学）創立
- 1990年　「明治大学・公開大学運営委員会」発足　「明大初の学外集中講座」長野県諏訪市で開講
- 1997年　「明治大学・成田社会人大学」開講
- 1998年　リバティタワー竣工（創立120周年記念館）
- 1999年　「リバティ・アカデミー」創設　「リバティアカデミー運営協議会」初会合
- 2001年　「ビジネスプログラム」が追加　「会員制度」開始
- 2002年　「語学講座」が追加
- 2003年　アカデミーコモン竣工
- 2004年　情報コミュニケーション学部設置　専門職大学院各研究科設置開始
- 2005年　「称号授与」制度を創設
- 2008年　国際日本学部設置
- 2009年　明治大学リバティアカデミー10周年
- 2010年　明治大学リバティアカデミー　現在のかたちへ　社会連携機構　発足
- 2011年　明治大学創立130周年記念式典挙行
- 2013年　駿河台キャンパス　グローバルフロント竣工　中野キャンパス竣工
- 2013年　明治大学リバティアカデミー　中野キャンパス・生田キャンパス講座開講
- 2015年　本学初・履修証明プログラム「女性のためのスマートキャリアプログラム」開講
- 2019年　明治大学リバティアカデミー20周年
- 2020年　明治大学リバティアカデミー　新たな挑戦へ！

初の本格的な大学と自治体の生涯学習における連携講座（授業）は、現在も続く。官学連携の生涯学習事業の先駆けとなっている。

年間講座数：36講座
受講生数：2,081名　でスタート。
現在は約10倍まで成長。

250名を超える修了生を輩出している。

左から、リバティタワー・アカデミーコモン・グローバルフロントの遠景



6 MEIJI UNIVERSITY LIBERTY ACADEMY

図表１　「リバティアカデミー」20年の歩み

間と土曜日開講の「ビジネスプログラム」、ＴＯＥＩＣ、ＴＯＥＦＬ、就職に関連する資格講座など学生の受講を主眼とする「資格・実務・語学講座」の３分野を柱に、新たに加わった「履修証明プログラム」、啓発活動としての「オープン講座」によって講座群の全体が構成されている。

２００３年に、本学の中核である駿河台キャンパスに、社会人の学びのための11階建て校舎建物「アカデミーコモン」が完成した。１０００人以上を収容する大ホール、ビジネススクール、ロースクール、会計専門職大学院、行政専門職大学院などの各種専門職大学院などとともに、その校舎の最上階が、リバティアカデミーの専用教室フロアとなっている。アカデミーコモン完成後は、リバティアカデミーの講座数を大幅に増やすことができた。

大学の授業期間に合わせて春学期と秋学期の２期に分け、半期で２００講座以上、年間延べ４００講座以上が開講されている。講座は、ワークショップやゼミナール形式の15人程度の講座から、大教室やホールでの講義や講演会方式まで、多彩なスタイルが揃っている。春と秋の開講時期には、リバティアカデミーの存在を知っていただくための無料のオープン講座も幅広く展開している。

リバティアカデミーの受講には、個人の会員登録が必要であり、会員は大学の図書館が利用でき、学内のカフェやレストラン、書店での割引、大学博物館の特別展示への招待などの特典が得られる。ポイント制度も整備され、継続的な受講の促進につながっている。講座受講による取得ポイント数に応じて、「アカデミー・マスター」や、年会費免除の永久会員「アカデミー・ドクター」などの称号が授与されるが、「教養・文化講座」を受講している女性や高齢者の方々はポイントの獲得ペースが速いようである。

リバティアカデミーの特筆すべき特長の一つは、明治大学の専任教員が必ず講座の講師またはコーディネータを務めるという原則である。講座の実施を外部機関や学外者に全て委託するということがなく、それが講師役の教員と受講生との信頼ときずなの強さ、すなわちリバティアカデミーの継続的発展につながっているといえよう。

2　明治大学リバティアカデミーの「ビジネスプログラム」

ビジネスプログラムの講座数は半年間で40～50、内容は「マーケティング」「金融・会計・財務」「経営・マネジメント」「人事・組織」「思考・実務」と多くの領域に

わたっている。原則として平日の夜7時から9時、もしくは土曜日に開講されており、6回の講義を1講座の基本とするが、3回で終えるものや10回続くものも見受けられる。図表2が、2019年春学期「ビジネスプログラム」の講座一覧である。

リバティアカデミーには、前述の個人会員制度に加えて、法人会員制度が設定されている。法人会員である企業・団体の社員・職員は受講料が2割引になるとともに、受講期間中は自動的に個人会員と同様の特典が得られる。法人会員制度は大手企業が社員研修の場として活用しているのみならず、中堅企業の経営者が、まず個人会員としてビジネスプログラムを受講し、その成果を実感して法人会員となり、自社の社員を受講生として次々に派遣してくださるという例も見受けられる。

本学の学生は受講料が5割引となるが、学部によっては残りの半額を学部予算で負担し、学生個人の支出なしに一定講座数の受講を認めている。特に、ゼミナールの講座やワークショップ型の少人数講座では、学生が講座内容の理解のみならず、就職活動や残りの学生生活の過ごし方に対するさまざまなヒントを得るなど、意欲の高い社会人の方々と共に学ぶ効果は大きい。

実践・マーケティング戦略セミナー
上原と大友のマーケティング・ゼミナール
一気にビジネス・コミュニケーションの“コツ”を学んでしまおう！
イノベーション発想法（実習編）
物流戦略を考えるサロン
サプライチェーン・ロジスティクスマネジメントの基本理解と事例・演習
プチ MBA・ケーススタディで学ぶ実践マーケティングゼミ
ブランド・マネジメント
事業改革のためのビジネスモデルデザイン実践講座
WEB マーケティング実践講座
実践・財務分析のポイントと企業価値評価
投資の肝であるテクニカル分析を学び投資の知識を高めましょう
財務諸表の見方・読み方（平日夜間コース）
財務諸表の見方・読み方（土曜集中コース）
金融・財務リテラシー
金融商品の仕組みと活用方法
投資・運用の始め方と経済の読み方
はじめて学ぶ経理実務入門
企業実務に必須の税金の基礎知識をマスターする講座
中小企業の管理会計／税務と経営戦略
金融改革ゼミナール
新しい株式投資への第一歩
安全学入門
ドラッカーが説いたマネジメント・スコアカード実践のすすめ
少子高齢社会時代の人事労務管理
ファミリービジネスから読み解く事業承継の本質
「空き家問題」と「住宅資産活用ビジネス」を学ぶ
起業家入門講座
マネジメント層に求められるコンピテンシーの理解と開発
戦略古典・「孫子」とクラウゼヴィッツ「戦争論」の本質を読み解く
ビッグデータ、IoT 時代のデータ分析のスキルを学ぶ
50代からの自分再発見と未来キャリアの作り方
今求められるビジネススキルとしての政治・経済学
ビジネスパーソンのためのライフステージマネジメント
悔い無き人生を実現する「ビジョン・ロードマップ」講座
論理的思考による問題解決・意思決定力強化講座
ことばが変えるあなたの世界
心のセルフマネジメント
人を動かすビジネスプレゼンテーション
言葉で人を動かすコミュニケーション術
好感度アップ！テレビに学ぶ伝え方のコツ
ホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）力強化講座
働き方改革関連法の詳細と実務対応
人事の定量分析
コーチング入門（火曜コース）
コーチング入門（金曜コース）
コーチング・アドバンス

図表2　「ビジネスプログラム」講座一覧、2019年春学期

ビジネスプログラムに見られるもう一つの特徴は、依頼者の目的に即した講座プログラムを設定する「オーダーメイド型研修」である。具体的には、各業界のメーカー、鉄道会社や大手小売業などによる、社員を対象としたマーケティングや顧客満足、営業、企画立案というテーマでの社員研修や、保険会社による寄付講座としての公開講座、金融機関の取引先若手経営者の勉強会などが展開されている。新しい傾向としては、美容品業界のメーカー、流通業と美容サロン経営者が一丸となった研修企画、中国の商業施設デベロッパーと小売業がメンバーである業界団体の主催による研修など、国内・外の業界レベルにおけるオーダーメイド型研修の依頼が届き始めている。

3 「ビジネスプログラム」の受講生像

これまでのビジネスプログラムの実績から、受講生像の変遷を振り返ってみたい。20年前、リバティアカデミーがスタートした当初のビジネス講座には、比較的高齢の熱心な受講生が目立っていた。受講動機は、自身が仕事でたどった軌跡を専門的、あるいは学術的な視点から考察し直したいというものであった。現在、大学院商学研究科に60歳以上を受験資格とするシニア入試制度があるが、今日のその受験生とも共通する研究意欲である。

次の時期、10年ほど前から目立ち始めたのは、マーケティング部長に任命された、あるいはマーケティング部門に配属になったなどの理由で、改めてマーケティングを学び直したいという受講生である。リバティアカデミーでは、学術雑誌の論文査読に準じたプロセスを経て、講師が執筆したテキストや受講生の研究成果の論文を『ブックレット』として発行している。ブックレット執筆後に学会に入会するなどして研究業績を積み、大学の実務家教員として活躍中の方も見受けられる。10年以上前から、商学部でも産学連携の新たな教育プログラム導入に注力したが、ビジネスプログラムにおける経験や成果は、さまざまな形で学部の産学連携の授業にも生かされている。

また、当時、社会人の学び直しプログラムとして、長野県飯田市でビジネス講座を開講した。その受講生の方々が、受講後に現地で地域活性化のＮＰＯ法人を創設して今日に至っている。こうした経緯などから、飯田市が大学などの地域連携教育の活動拠点になっているようである。

その後は、受講生の年齢の若返り現象と、女性の受講生増加が顕著になって今日に至っている。私自身の専門でもあるマーケティング関連の講座では、「情報部門やシ

ステム開発部門、人事部門に所属しているが、ビジネスの全体像を知るためにマーケティングを学びたい」、「素材メーカー勤務であるが、取引先の消費財メーカーの立場から顧客ニーズを取り込む術を身に付けたい」、「研究開発の担当だが、マーケティングの必要性を実感している」といった受講生が増え、所属企業や部門、業種の枠を超えた人的ネットワークの構築も重要な受講動機となっている。大学附属病院の研修医が、「遺伝子工学分野の起業も視野に、ビジネスを深く学びたい」と語っておられたのも印象に残っている。

4　履修証明制度の活用による「女性のためのスマートキャリアプログラム」

２０１４年に大学の方針として「履修証明制度」の活用が決まり、その講座をリバティアカデミーのビジネスプログラムとして開設することになった。リーマンショック以降、厚生労働省の委託訓練講座として、求職者を対象とする「ホワイトカラー層のマネジメント講座」をリバティアカデミーが受託していたが、受講生における女性の比率が年々高くなっていたこともあり、昼の時間帯に実施する女性を対象とした半年間のビジネス講座として、履修証明制度に見合う１２０時間のプログラムを「女性のためのスマートキャリアプログラム」という名称で展開することとした。

２０１５年春に第１期生の募集を開始し、今春には９期生が学び始めることになる。講座の企画段階では、商学部で私のゼミナール学生だった卒業生の女性たちが、ゼミのＯＢ・ＯＧ会で口にする結婚や出産による離職と、離職後の仕事復帰への葛藤なども、講座の基本理念や具体的な講座の組み立てに大いに参考になった。その結果、ビジネスプログラムの永年の講座運営の実績、商学部の10年前からの企業や地域との連携によるビジネス教育プログラムなどを土台に、その講座の受講生が、やがては専門職大学院のビジネススクールに入学することなども視野に入れつつ、カリキュラムを編成した。図表３が、その昼間コース９期生の募集パンフレットの一部である。

潜在的な実力を備えた女性受講生たちの、学ぶ意欲は高い。学生時代の専門分野やビジネス経験の背景は互いに異なるものの、同じ前向きな気持ちでビジネスプログラムを真剣に学ぶ仲間としての共通意識も強いようである。受講前は家事との両立を心配したものの、子どもたちや夫もむしろ家事に協力してくれるようになり、さら

2019年4月開講
女性の仕事復帰・キャリアアップを支援するビジネスプログラム
～生活スタイルに合わせて学べる2コースを開講～

入校式・講義風景・修了式　～講義には笑顔が溢れています～

昼間コース 「仕事復帰を目指す」「ビジネススキルを無理なく身につけたい」方に最適

プログラムの特徴

1. 女性の仕事復帰を支援する充実のプログラム
2. 子育て中に受講しやすい設定
3. 半年間の短期集中カリキュラム
4. 新たなネットワーク・知の交流の場を提供
5. 就職支援体制

カリキュラム一覧

必　修	マーケティング・コミュニケーション
	金融・財務リテラシー
	マーケティング実践プロジェクトゼミナール
	マネジメント・サロン（経営者等による講義）
	ライフ・キャリアマネジメントⅠ
選　択	ライフ・キャリアマネジメントⅡ
	ビジネスコミュニケーションⅠ
	ビジネスコミュニケーションⅡ
	実践・財務分析のポイントと企業価値評価
	ビジネスプレゼンテーション
	ロジカルシンキング
	ブランド・マネジメント
	マネジメント層に求められるコンピテンシーの理解と開発
	情報セキュリティ＆リテラシー

プログラムの特徴

履修期間　6か月（2019年4月入校～ 2019年9月修了）
修了要件　必修5科目、選択4科目　計120時間以上の履修及び修了認定
講義時間　10:30 ～ 12:00、13:00 ～ 14:30 1日2コマ

検定料　3,000円
受講料　128,000円＊
入校試験　面接

まずは入校・キャリア相談会にご参加ください。
担当教授とともにお待ちしております！

会場：明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン11階
参加費無料・事前予約制
【申込方法】お電話、または特設ページの「お問合せ」からご連絡ください。

入校・キャリア相談会

①2月12日(火)10:30～12:00
②2月13日(水)19:00～20:30
③2月16日(土)10:30～12:00
④2月16日(土)13:00～14:30
⑤2月20日(水)10:30～12:00
⑥2月23日(土)13:00～14:30

お電話、または特設ページから
お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

明治大学リバティアカデミー事務局
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 駿河台キャンパスアカデミーコモン１１階
TEL 03-3296-4423【平日】10:30～19:00【土曜】10:30～15:30【日・祝】休
※e-mailのお問合せは、特設ページお問合せフォームからお願いいたします。

特設ページをご覧ください!!
明治大学スマートキャリア　検索
http://academy.meiji.ac.jp/smartcareer

MEIJI UNIVERSITY LIBERTY ACADEMY 135

図表３　『女性のためのスマートキャリアプログラム（昼間コース）』の概要

には家族間でビジネスや経済にまつわる話題も増えて、かえって家族との絆が深まったという受講生の感想が多い。講座開始直後から、1億総活躍、働き方改革、ダイバーシティ社会などと盛んにいわれるようになったが、これからは各企業による中途採用者の積極的な受け入れ制度の拡充が、女性活躍の場の拡大には不可欠であろう。

「女性のためのスマートキャリアプログラム」は、それまでの各講座別の募集と申し込みではなく、いわばパッケージ化された半年間120時間のビジネス教育プログラムである。講座開始直後から、同じ内容の講座パッケージを、働きながら夜間でも学べるかという問い合わせが続いたため、2015年秋の講座から、昼間だけではなく夜間・土曜日のみの講座も併せて開講。企業からの派遣も含めて、働きながら学ぶ受講生も増加しつつある。

5 「ビジネスプログラム」の将来展望と可能性

明治大学は、かつては働きながら学ぶ社会人教育の場であった学部二部の募集を2004年に停止した。その社会人教育の役割を引き継いだのが、夜間・土曜日に講座を開設するリバティアカデミーのビジネスプログラムであり、同年、ビジネススクールとして開設されたグローバルビジネス研究科などの専門職大学院であろう。

21世紀に入り、各大学は時代の変化を反映した「新学部の開設」や、グローバル化の一層の進展を見込んだ「国際化の推進」を進めてきたが、次のテーマは「社会人の学びの拡充」であろう。履修証明制度の活用に至るビジネスプログラムの発展を振り返ると、かつてのような単発の公開講座方式の講座プログラムのみならず、一定の期間継続して学ぶ体系的なビジネスプログラムが強く求められていることが分かる。

欧米やアジア諸国の大学・大学院では、EMBAなどの名称で、修士の学位取得を目的とせずに、半年ないしは数カ月の期間、専門的に学んで修了証や受講証明書が授与されるエグゼクティブ・ビジネス・プログラムが増加・定着しつつある。これからは、ともするとそれぞれが独自の体制になりがちであった大学内の学部レベルの教育、大学院や専門職大学院の教育・研究体制、さらには従来の社会人教育、ならびに教員の研究推進組織や学生のキャリア支援部署などが強固に連携して、より専門的かつ高度なビジネス教育プログラムを実施することが、グローバルな視点による大学教育に対する新たな使命として期待されている。

小特集 社会人・企業向け講座のいま

社会人向け講座の取り組み

中央大学経理研究所事務室

1 社会人講座の理念

中央大学経理研究所は、優に半世紀を超える間、企業社会に適切なサービスを提供し、高い評価を得てきた。しかも、その講義内容は平易な理解を念頭に置きながらも質的レベルは決して下げないという、初代所長・太田哲三以来の〝想い〟を貫徹している。その精神を軸とし、各領域の第一線で活躍する専門家を講師として迎え、折々の課題をテーマとしながら、安価な受講料で研究会、専門講座、社会人簿記講座を展開している。

2 研究会

有料会員制の月例研究会として、実務の第一線で活躍する職業会計人、企業実務家、大学または研究機関の研究者を講師に招き、各界・各分野の専門家としての視点から、会員の《知的好奇心》を鼓舞し、知性・感性を錬磨する幅広い領域の「知」を提供している。会員は、講師との間で知的情報の共有が可能であるのみならず、講師との質疑応答および会員相互の討論を通じて、日常的に抱える問題点の解決策を模索・案出し、不透明な将来を洞察する発想や示唆を得る機会として機能している。

企業は、そのヴィジョン（理念）の実現に向けて、環境変化に順応し得る《適応性》、環境変化を洞察し得る《先見性》、新たな環境情報を創出し得る《創造性》を備えた〝人財〟を必要としている。一方、研究会は、会員が高度な「適応性・先見性・創造性」を開発・修得する契機となる《舞台》を提供し、それら能力の開発・修得の基底となる《知見》の形成を手助けすることを目指している。

3　専門講座

企業・団体などの経理・経営管理担当者、会計専門職（公認会計士、税理士）などを対象として「財務会計」「税務会計」「管理会計」の3講座を開講している。これらは、現在の経済・産業界や企業経営の現実が抱えている諸種の問題をタイムリーに取り上げる実践的な内容の講座であり、近年、顕著に見られる会計・税務・経営管理の変化に対応する能力の涵養を目的とする高品質な講座として評価を得ている。

財務会計講座では、ＩＦＲＳ（国際財務報告基準）における重要論点を扱い、プロジェクトの動向なども踏まえながら、わが国の企業がＩＦＲＳを適用する場合の実務上の典型論点を体系的に分かりやすく解説している。

税務会計講座は、経済のグローバル化や国際会計基準の進展に伴う取り引きや、企業会計の変革に対応した課税制度のあり方と、税務および法解釈の整合性に重点を置きながら、分かりやすく解説している。

管理会計講座は、前期の「管理会計の基礎的理解」に重点を置き、その内容を具体的かつ平易に講義している。後期は、「実践的管理会計の技法」をケーススタディに重点を置き、企業で活躍している方をゲスト講師としてお呼びして理解を深めていく、リアリティに富んだ講座である。

各講座ともに前期または後期全10回の受講のほか、関心のあるテーマのみを受講することも可能としている。

4　社会人簿記講座（日商簿記3・2級講座）

経理・経営管理に初めて携わる方向けに、会計を基礎から学べるよう、社会人を対象とした初心者向けの簿記の講座を展開している。授業は全てＷｅｂ上で受講する通信教育の形式を採用しており、ポータルサイトから模擬試験問題をダウンロードすることによって、実践的な問題練習を自宅で実施し、実践力を育成することができる。授業や問題の内容で不明な点があった場合は、ポータルサイトからいつでも講師に質問・相談することができる体制を整備している。